

令和2年6月29日

発行者 栃木県養護教育研究会

会長 田代 哲郎

編集者 栃木県養護教育研究会事務局

「研修部での1年を振り返って」



栃木県総合教育センター研修部

指導主事 永岡 裕子

栃木県養護教育研究会の皆様におかれましては、当センターの研修事業につきまして、お忙しいところ受講者としての参加や、研修講師としてのご尽力、誠にありがとうございます。

ここでは、令和元(2019)年度に実施しました当センターにおける養護教諭研修について報告させていただき、あいさつに代えさせていただきます。

養護教諭専門研修は、7月に大学講師による「保健教育」に関する講話や演習を実施し、33名が受講しました。また、基本研修の受講者数（以下免除者を除いた数）と日数は次のとおりです。

	新規採用	2年目	5年目	中堅(10年目)	20年目
受講者数(小中・県立)	24名(20・4)	23名(20・3)	13名(12・1)	13名(10・3)	7名(5・2)
研修日数	14日(宿泊含)	2日	2日	6日(選択1日含)	2日

受講者数を見ていただきますと、養護教諭においても採用者数が増加しています（令和2(2020)年度新規採用35名（小中31・県立4））。そのため、現在若手を指導するミドルリーダーやベテランによる人材育成が重要視されております。基本研修の内容の一部である、新規採用の「課題研究」、中堅と20年目の「校内実践」は、日々の執務で忙しい中取り組まれ、大変だったかと思います。しかし、発表や研究協議での活発な意見交換や先輩からのアドバイスを受け、今後の執務の参考になったとの声が多くありました。他にも、ヒヤリハットの事例研究では、「リスクマネジメント」について学び合いました。次年度も引き続き当センターにおける養護教諭専門研修の受講、新規採用研修等の一部で聴講が可能です（申込要）。また、1階図書資料室に養護教諭向けの雑誌等がありますのでご活用ください。今後も実践的な内容の研修を検討していきますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

最後になりますが、受講者の立場から研修計画や講話などを実施する立場になり、慣れない環境に苦しい日々が続きましたが、たくさんの養護教諭の方に励ましやアドバイスをいただき本当にありがとうございました。

この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。

今後も笑顔を絶やさず頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



令和元（2019）年度 新規養護教諭と…

「文部科学大臣優秀教職員表彰」を受賞して

下野市立南河内第二中学校 橋本 牧子

栃木県養護教育研究会の皆様には日頃より大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

この度、令和2年1月14日に東京大学安田講堂にて、全国825名の教職員と44教職員組織の皆様とともに、令和元年度文部科学省優秀教職員表彰を受けさせていただきました。

私はこれまで臨採を含め小学校3校、中学校3校を経験させていただきました。この受賞を機会に、今まで出会った児童生徒や保護者、先生方、そして養護教諭の方々の事を思い出してみました。

初任の勤務校で、失敗だらけで落ち込んでいた私に、女性の校長先生が「竹のようになややかに><折れない心>を持って頑張って!」と励ましてくださいました。「竹のようになややかに」は私が養護教諭として勤務する上でモットーとしていることです(簡単なようで難しい…)。

一校に一人の養護教諭配置が多い中、養護教諭が複数配置されている大規模校では、8年間の勤務で6名の若い先生方と一緒に勤務することができました。新採、臨採、立場は違っても皆、一生懸命勤務している姿はとても刺激になり、「私も先生方のお手本になれるよう頑張らないと!!」と自分の仕事に対する姿勢を見直す貴重な経験となりました。

わからないことはインターネットを検索すると解決する世の中になってきました。しかし、周りの学校を見れば、養護教諭の仲間がいて、同僚の先生方もいます。お互いにコミュニケーションをとりあうことで「人間力・養護教諭力」がアップしていく事を6名の若い先生方と共に過ごした8年間の勤務で実感しました。「こんな養護教諭になりたい」「こんな保健室にしたい」と思う気持ちが強すぎると、周りとの調和がとれなくなると思います。「全ては児童生徒の成長のために」という気持ちを持ち、折り合いを付けながら仕事をしていく。また、異動する学校の雰囲気合わせた保健室を作り上げる。そして少しずつ自分のカラーが出せるように心がけています。

昨年度は2月頃から「新型コロナウイルス感染症」が流行しています。会員の皆様も対応に苦慮されていることと思います。今回の「新型コロナウイルス感染症対応」については、2009年に流行した「新型インフルエンザ」での対応記録が役に立ちました。しかし、想定外の事の方が多く、養護教諭として何ができるのかを模索しながら生徒、保護者の方々、同僚の先生方へ早め早めに正しい情報を流したり、対応したりしたことを記録として残し、いつかまた起きるかもしれない「もしも」の時に備えるようにしました。

皆様がこの「かがやき」を目にするのは6月末。その頃、世界や日本の流行状況はどうなっているのでしょうか。本日は3月18日です。全く想像できませんが少しでも状況が好転している事を願っています。

「泣いたり、笑ったり、喜んだり、悲しんだり…。大人になってもこんなに喜怒哀楽を経験できる職業って教員くらいじゃないかな。」と話してくれた同僚の先生がいました。本当にそうだなと思います。これからも、目の前にいる生徒のために養護教諭として何ができるかを考え、頑張っていきたいと思います。



全国学校保健・安全研究大会報告

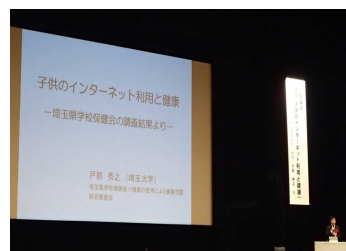
大田原市立金田北中学校 國峯 恵実

1 全体会記念講演

「子供のインターネット利用と健康～埼玉県学校保健会の調査結果より～」

埼玉大学教育学部教授 戸部 秀之 氏

『埼玉県の調査によると、インターネット利用生徒の中で、睡眠習慣の悪化、運動習慣の減少、食習慣の悪化等、生活の変化を感じている者の割合が2～3割いた。また、インターネット依存傾向が強い生徒は、犯罪被害につながる可能性のあることに触れたり、自分の気持ちを抑えられないと感じたりしている傾向があった。精神科医の観点から、子どもの発達段階に応じたルール設定が必要だという。自分でコントロールできるようにしていくことが大切で、親子関係を良くすることで、インターネットにのめりこむ必要が無くなるようにすることが大切である。』とお話しされていました。



2 課題別研究協議会

第2課題 保健管理

研究発表

- ・「健康課題解決への第一歩～健康診断を通して健康課題に気付くための取組～」

鹿児島県立薩南工業高等学校 養護教諭 森田 隆子 氏

- ・「いのち輝く生徒を育むために～地域の特色を生かした校内、校外の連携と取組～」

埼玉県入間郡毛呂山町立川角中学校 養護教諭 齋藤 美穂 氏

- ・「全校体制で取り組む感染症等の予防と対応」

東京都板橋区立高島第一中学校 主任養護教諭 熊谷 雅子 氏

健康診断や保健調査、アンケート調査等を丁寧に行い、保健指導につなげることで、生徒の健康への関心や自己管理能力が向上した取組や、健康課題から、保健体育科との連携、生徒保健委員会の活性化、外部機関との連携などで健康意識が高まった取組の発表を聞きました。児童生徒が生涯にわたり健康な生活を送るためには、教職員の共通理解のもと、家庭、地域との連携が不可欠です。健康診断や生徒保健委員会活動、感染症対策など、より一層連携し教育に結び付ける大切さを感じました。

指導助言 (コーディネーター)

札幌市教育委員会保健給食課 指導主事 半澤 郁子 氏

ヘルスプロモーションの理念が踏まえられた上での保健指導ができています。健康課題を明らかにすることで、教育に結び付けられています。シンプルでわかりやすく、かつ専門性を生かしたマニュアルの作成など、生徒も巻き込み組織的に取り組むこともできています。今後も学校の教育活

動全体を通して保健管理に取り組んでいくことが期待されます。

講義 「児童生徒が生涯にわたって健康な生活を送るために必要な力」

びわこ学院大学 教授 岩崎 信子氏

最近の健康課題は、感染症、熱中症事故、特別支援教育、虐待等、多様化複雑化しており、教職員、家庭や学校医、外部機関と連携し、児童生徒を支えていくことが必要となります。そこで養護教諭が専門性を発揮し、その中心的な役割を担うことが期待されています。

第4課題 現代的健康課題

研究発表

- ・「発達の段階に応じた望ましい生活習慣づくりの進め方について」

岐阜県立岐山高等学校 養護教諭 岩佐 恭子 氏

- ・「各教科、特別活動及び総合的な学習の時間との関連を図った指導の進め方について」

埼玉県三郷市立早稲田中学校 主幹教諭 菅野 恒典 氏

- ・「学校、家庭及び地域社会が連携した望ましい生活習慣づくりに関する指導の進め方について」

千葉県君津市立久留里小学校 養護教諭 中澤 恵津子 氏

発達段階に応じ、教科等との相互の関連を図り、年間指導計画を見直して学校生活全般で健康教育を推進した取組では、道徳、総合的な学習の時間、生徒会活動や関係機関、異校種の連携など、様々な連携を生かし、一丸となって指導にあたっていました。その結果、生徒指導面の改善や学力向上という変容が見られました。

指導助言（コーディネーター）

埼玉県春日部市立川辺小学校 校長 鈴木 美江 氏

望ましい生活習慣の確立は、現代的健康課題の一次予防的な観点からも非常に重要です。学校のエデュケーション全体を通じて適切に生活習慣づくりを行っていくためには、教育課程に基づき、各教科の年間指導計画や学校保健計画との関連を図りながらカリキュラムマネジメントに努め、多面的に進めていくことが必要です。

講義 「フィンランドの健康に関する教育」

仙台大学 教授 小浜 明 氏

フィンランドでは、大学入学資格試験で保健の科目があるが、単に知識を問う問題はほとんど無く、現代社会の中で直面する健康課題を対象にして科学的認識を根拠に、論理的な結論が構成できるのかを問うものとなっており、先進的な事例です。日本においても、「考える力」「深い学び」が一層求められます。

全国養護教諭連絡協議会研究協議会報告

令和2年2月21日（金）メルパルクホールで開催された全国養護教諭連絡協議会第25回研究協議会に参加してまいりました。自己研鑽のためという思いと、特に特別講演の講師である東ちづるさんにお会いしたいという思いもあり今回初めて参加しました。また基調講演やフォーラムも、我々養護教諭の専門職としての資質向上を目指す上で貴重な学びとなるものでした。

今回の主題は「時代の変化に対応した養護教諭の役割を追求する」～子供たちがたくましく生きるための学校保健の取組～です。子供たちを取り巻く社会の多様化、生活の質の変化、これらの変化が子供たちの心身の健康に与える影響を考えた時に、学校保健・養護教諭の役割は非常に大きなものになってきます。

◆特別講演 「誰も排除しない『まぜこぜの社会』をめざして」

女優・一般社団法人 Get in touch 代表 東 ちづるさん

東さんは終始素敵な笑顔で舞台の中央に立ち、大きな身振り手振りを交えながら明るくお話されていました。

長年ボランティア活動を続けてこられ、LGBTや障がいをもった方などのマイノリティにどう配慮するのか？全ての人々が自然に心地よく暮らせる「まぜこぜ」の社会を目指して、アート（個展、展示）や音楽（ドラマやステージ）で行ってきた活動について紹介されました。

特に印象的だったのは、多様性社会を目指し「学校は一番チャレンジできる場所」「まぜこぜの社会が普通である社会になることが目標」と話されていたことです。



◆基調講演 「学校保健の課題とその対応」

文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 松崎 美枝 先生

新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応を中心に、保健教育、保健管理（健康診断・疾病の管理と予防・救急処置）についてお話をいただきました。社会問題にもなっている感染症（新型コロナウイルス）の話題が主となり、特に感染症対策については、日本学校保健会発行（平成30年3月）「学校において予防すべき感染症の解説」を基に、「流行の予防」が何よりも大切であるというお話がありました。

◆フォーラム「子供たちがたくましく生きるための学校保健の取組を通して」

シンポジウムに先立ち、4名（小・中・高・特支）の先生方から実践報告がありました。子供たちの課題の解決・改善に向けて4名の先生方の自ら取り組まれた実践が紹介されました。悩みながらも、楽しみながら実践を深め、養護教諭ならではの工夫が盛り込まれた4名の先生方の実践を、コーディネーターの戸部秀之先生が会場の視聴者が興味深く入り込めるよう、まとめてくださいました。ご紹介します。

【小学校】 「養護教諭の専門性を活かした歯科保健と性に関する保健教育」

発達段階に合わせた「歯科保健」及び、「男性養護教諭の視点からの性に関する保健指導」についての実践例。ICT教材を活用し、校内でデータを共有することで、養護教諭だけでなく学級担任もデータを自由に活用でき、また、不登校傾向の児童も同じように学習できるように工夫をされた保健教育の紹介。

【中学校】 「子供の発達・健康を支える多職種ネットワークづくり」

養護教諭からはじまった自主学習グループ「こころネット」の学び合いが、学校や地域の様々な分野に広がり、子供の発達や健康に関わる地域の資源が結びついて有効に機能している取組の報告。

【高等学校】 「養護教諭が科目保健（性に関する指導）に関わる意義と可能性」

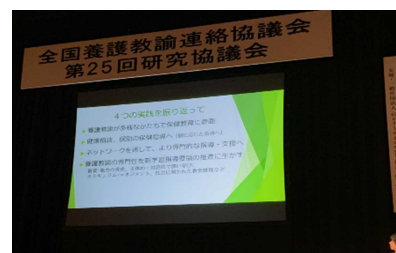
養護教諭の知識を活かし、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた科目保健としての授業を行う中で、生徒との関係を築くことができた。この実践の成果として子供たちにとっての養護教諭のイメージの変化があり、個別の保健指導が効果的につながったという実践の報告。

【特別支援学校】 「健康の意義を基盤とした知的障害特別支援学校（高等部）における保健教育」

生徒が「健康の意義」をしっかりと理解できるようにするため、様々な健康行動（朝食摂取、早寝早起き、歯みがきなど）が、「働くこと」とどのように結びつくのか。より良く働いていける将来の素敵な自分の姿を思い浮かべながら健康行動を意義付け、行動に向けての動機付けを考えた保健教育の紹介。

～4つの実践を振り返って～

- 養護教諭が多様な形で保健教育に参画
- 健康相談・個別保健指導（個に応じた指導）へ
- ネットワークを通して、より専門的な指導・支援へ
- 養護教諭の専門性を新学習指導要領の推進に生かす
- 資質・能力の育成、主体的・対話的で深い学び、カリキュラム・マネジメント
- 社会に開かれた教育課程など



養護教諭の「実践知」とは、児童生徒へのよりよい指導・支援を目指して、試行錯誤を繰り返す中から見いだされた「知恵」です。シンポジストの知恵・工夫・悩みに共感しながら、自分自身の歴史に照らして、実践理論に発展していけるよう、今回の研修も栃木県養護教諭の共有財産としていけたらと思います。

地区だより（塩谷地区）

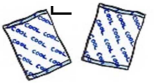
高根沢町立北小学校 佐藤 幸枝

塩谷地区は、会員の資質向上と連携を目的として、年2回の全体研修を開催しています（活動内容は、しろたえに記載されています）。地区内では、4つの市町部会と高等学校部会の5つの部会で研修・研究をしています。会員は、小中県立学校等35校の養護教諭・養護助教諭43名で構成されていますが、このところ毎年のように新会員が加わり、若い会員が増えて参りました。そのため、部会研修会は、養護教諭としての知識の向上だけでなく、若手の会員に先輩のノウハウが伝わる機会でもあり、年を重ねた(笑)ベテラン養護教諭も若い人たちの情熱に触れる良い機会となっています。多くの学校で一人職の養護教諭ですが、研修を通して様々な事を学ぶ機会でもあるため、これからも助け合っていきたいと思います。

今回は、地区内の養護教諭のあるある話を掲載いたします。みなさんも似たような体験をされているのではないのでしょうか。私たち養護教諭は、いろいろな思いを胸に秘め、これからも頑張っていきたいと思います。

養護教諭あるある話（ペンネーム）

○ケーキについている保冷剤を見ると、つい「学校で使える…」と思ってしまう。（いち「ショート」）



○掲示物作成で余った色画用紙の切れ端をとっているがそのことを忘れて新しい用紙を使ってしまい結局たまってい…。（うさぎのしっぽ）

（ゆき）



○全校集会や儀式の時、咳をしたり顔色が悪かったりする子がいないか気になるキヨロキヨロするため儀式に集中できない。（晴れのち雪）

（ぶん）

○「金魚の具合が悪そう！」「トイレの水が止まらない」「靴が濡れちゃった！」「こはコンビニじゃないぞ」

（ぶん）

○ケガをしたスズメ・弱ったコウモリなどが保健室に運ばれてくる保健室は人間専用です。（ブラックジャック）

○あの子の対応良かったかな？と最悪な事を考え眠れなくなり、眠れば夢に出てくる。次の日、本人の顔を見て、やっぱり良かったと安心する。（花子）

○いつも傾聴姿勢。いつの間にか主張することを忘れてしまう。（カナリア）

○お茶をしようと職員室に戻ると、すぐ保健室に呼び戻される。（いち「大福」）

○医療系文房具（歯のキラクター付箋等）を見つけたら、買いがち。（ymc）



○養護教諭不在時に限って大きなけがが発生する。（ミラーの星）

（レスキュー）

○どこにいても、AEDが目にとまる。（レスキュー）

○どうか一番先にインフルエンザにかかりませんように…とせつに願う。（K）



○人間ドックに外れちゃった人がいると「書きもらしたかな…」と、こっそり確認してしまう。（命の母）

○検診中、児童の名前をど忘れ！上履きの記名見つけて、ホツとし何事もなかったようなフリをする。（x o o x o o）



○目が合うと、きまってる感じが痛い教えてくれる子がいる。（レインボー）

○「先生！シップはって！」私は薬屋さんではありません。

「先生、（けがを）治して！」残念ながら魔法は使えません。（ミネルバ）

○ケガの理由を聞くと、「昨日家で…」と。「おうちの人に言いましょ…」と思いつつ手当てする。（ナイチンゲール）

○出かける時に、もしものことを考えてバンソウコウを持ってしまう。（ひなたぼっこ）

役員退任にあたって

宇都宮市立雀宮中学校 亀和田 和子（書記）

平成 27 年度から 5 年間、書記を務めさせていただきました。当初、役員のお話をいただいた時には、恐れ多く、お引き受けできる立場ではないと思っていました。

あれから役員の皆様と一緒に仕事をさせていただく中で、ワンチームとして会員の皆様のために労を惜しまない役員の方々や、これまで栃木県養護教育研究会の発展ために尽力されてきた諸先輩方に思いをはせ、役員としての責任の重みを改めて感じました。また、参加してくださる会員の方々の研修意欲を肌で感じ、学校の執務だけでは経験できない貴重な時間を共に過ごせたことが何よりの宝物です。一緒に仕事をさせていただいた先生方、お世話になった先生方に心より感謝申し上げます。退任にあたり、これからの養護教諭の職務は益々激務になると思われませんが、どうぞお体に気をつけてお過ごしください。そして、栃木県養護教育研究会の益々の発展を心よりお祈りしています。

5 年間大変お世話になりました。



大変お世話になりました。
ありがとうございました。